

星をみる会

令和4年5月14日(土)、6月4日(土)、8月13日(土)、11月5日(土)

【目的】

親子を主な対象に、本所が有する資源を活用した自然体験活動である「天体観察」の機会を提供する。その際、季節によって自然のすがたが変化することなど、自然に対する理解をより深められるよう、年間を通じて計4回開催する。

【参加者】天体観察に興味・関心のある家族 延べ216名

【プログラムの内容】

回	開催日	テーマ	天候
1	5月14日(土)	北斗七星～春の星座・月(月齢⑬)	晴れ
2	6月4日(土)	春の星座と球状星団・月(月齢⑤)	曇り
3	8月13日(土)	ペルセウス座流星群・土星	曇り時々晴れ
4	11月5日(土)	木星・土星・月(月齢⑪)	晴れ

「北斗七星～春の星座・月(月齢⑬)」(第1回)



天体望遠鏡を使った月の観察

レーザーポインタを使いながら北斗七星やその他の春の星座の見つけ方について解説を行ったり、天体望遠鏡での月の観察を行った。月のどの部分が欠けているか、欠けている部分は肉眼と望遠鏡でそれぞれどのように見えるかといったことについて、観察を通して確かめる機会となった。

「木星・土星・月(月齢⑪)」(第4回)



屋内での解説

はじめに、今回観察する天体や数日後に起こる皆既月食について、屋内で解説を行った。その後に天体望遠鏡を使って木星・土星・月の観察を行った。

木星の縞模様と衛星、土星の輪と衛星、月の欠け方といったことを観察を通して確かめる機会となった。

「ペルセウス座流星群・土星」(第3回)



中央広場での夏の星座観察

曇りの天気となり、大部分は屋内での解説となった。解説では、流星群の見え方とその見つけ方について学ぶ機会となった。晴れ間が見えた時間帯は、望遠鏡を使って夏の星座を構成する星の観察を行った。



天体望遠鏡を使った観察の様子

【参加者の声】

- ・子供に星を見る機会を作ることができて、良い会だと思いました。(第1回)
- ・星もあるけど飛行機もたくさんとんでいることを知りました。星の光のつよさや、月の表面の様子など、ここでしか知れないことを体験できてよかったです。(第2回)
- ・あいにくの天気であまり見れませんでした。先生のお話などとてもおもしろかったです。(第2回)
- ・レーザーで示してくれたので、夏の大三角形が良く分かりました。天気が心配でしたが、来て良かったです。(第3回)
- ・この場所だからできる企画をととても魅力的に実施して下さいました。娘も星に対する興味がさらに高くなって、感謝しております。(第4回)

【成果】

- ・年間を通じて複数回開催することで観察の機会が増え、季節ごとに異なる自然に触れる機会をつくることができた。
- ・指導員が2名いることで、1名が天体望遠鏡を操作して観察できる天体を紹介している間に、もう1名がレーザーポインタを使用して星座や特徴的な星を紹介するなど、参加者が様々な星空のすがたを観察する機会をつくることができた。

【課題】

- ・天候によっては参加者にとって十分な観察の機会が提供できないことがあった。そういった場合にも参加者が「来てよかったです」と思えるよう、模型やプロジェクタを用いた説明について指導員と十分に打合せしておく必要がある。